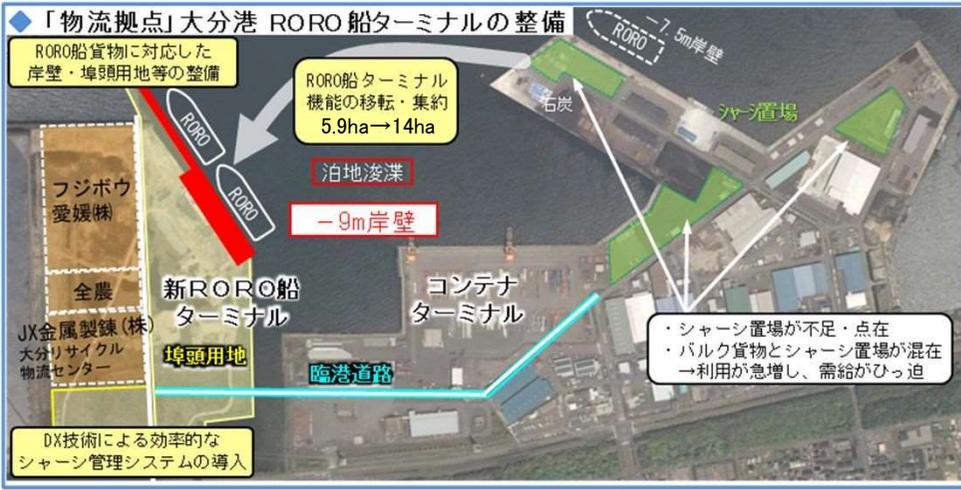


大分港（大在西部地区） RORO船ターミナル



海上輸送貨物の増加に対応するため、国と県で整備を進めていた大分港大在西部RORO船ターミナルの1バース目が完成し、5月24日から供用開始となりました。

【整備効果】

- 岸壁水深が現在の7.5mから9.0mになり、船舶の大型化に対応できることで輸送効率が向上。
- 不足・点在していたシャシー置場は岸壁背後に集約され、敷地面積も約2.4倍に拡張。
- 広大な敷地を有効活用するため、DX技術を活用し、受付の無人化や駐車位置のシステム管理をすることで、荷役作業の効率化も図る。

